



# 首里城と沖縄神社に関する沖縄・熊本調査報告

加藤 里織

(非文字資料研究センター 客員研究員)

## はじめに

非文字資料研究センターの第五期（2020-2022年度）共同研究「『帝国日本』境界の祭祀再編と海外神社」班では、近代日本が最初に領土と位置付けた沖縄において建設した「沖縄神社」に関する資料集を刊行することを目的に、沖縄と熊本で、関連する資料の収集を行ってきた。本稿は、その調査報告である。調査を行なった日程は下記の通りである。

沖縄調査 2022年9月6日（火）～9月9日（金）3泊4日

熊本調査 2023年2月24日（金）～2月26日（日）2泊3日

本稿では、それぞれの調査の具体的な内容について報告する。

## 1、沖縄調査

9月6日（火）正午過ぎに那覇に到着したのち、首里城を訪れて、「令和の復元」工事の現状を見学した。その後、沖縄県立図書館に移動し、首里城関連の資料や郷土資料などを確認した。夜は、那覇市役所市民部文化財課の伊良波賢弥氏と会食し、調査の協力を依頼した。

9月7日（水）午前、那覇市役所市民部文化財課を訪問して、課長兼博物館長の大城敦子氏、担当副参事の外間政明氏、伊良波賢弥氏から那覇市が所蔵する首里城・沖縄関連資料についてアドバイスをいただいた。また、那覇市歴史博物館が刊行した報告書『首里城御普請物語』を寄贈していただいた。午後は、那覇市歴史博物館内で資料調査を行なった。その際に、同館歴史資料調査員の大城直也氏の案内で展示を見学した。資料調査では、同館デジタルミュージアムで公開されていない資料の画像データなどを提供いただいた。

9月8日（木）午前、沖縄県公文書館にて資料調査を行ない、同館が所蔵する昭和期の沖縄県知事事務引継書など、沖縄神社関係の資料の収集を行なった。午後は沖縄県立図書館に移動して、同館所蔵の首里城・沖縄神社に関する絵図や写真資料を中心に収集を行なった。

9月9日（金）午前、沖縄県立博物館・美術館の展示を見学し、資料閲覧室で首里城・沖縄神社関係の資料調査を行なった。午後は沖縄県立図書館に移動して、前日に引き続いて首里城・沖縄神社関係の資料収集を行な

った。夕方、伊良波賢弥氏の案内で沖縄空手会館を訪問。同館の研究員で沖縄神社について調査を行なっている仲村顕氏より、関係資料についてアドバイスをいただいた。その後、沖縄空手会館の展示見学をして、那覇空港へ向かい帰路についた。

### ①首里城

かつて琉球国の王城であった首里城は、2019（令和元）年10月31日未明に起きた火災で、正殿のほか北殿や南殿など九つの施設が消失した。現在は、2026（令和8）年秋の完成を目指して「復元」工事が行なわ



写真1 首里城の漏刻門の奥に「木材倉庫・原寸場」が見える



写真2 見学用デッキから日々進む修復作業を見学できる



れている最中である。この工事は、「見せる復興」をテーマに、北殿側の城壁沿いに見学用デッキが備えられ、工事全体の様子を見渡せるようになっている。また、2022年9月30日には首里城正殿の復元に使用する木材を保管・加工する「木材倉庫」と正殿の実物大の図面を描く「原寸場」が完成し、各作業の様子を見学することができるようになった。筆者が訪れたのは、ちょうどこの木材倉庫が完成した時期である。

## ②沖縄県立図書館

沖縄県立図書館は、1910（明治43）年に開館（沖縄県立沖縄図書館）し、初代館長は伊波普猷が務めたという歴史ある図書館である。1972（昭和47）年5月15日の日本「復帰」に伴い、現在の名称である沖縄県立図書館となった。現在の蔵書数は878,020冊で、そのうち351,972冊が郷土資料となっており、琉球・沖縄に関する郷土資料を保存している施設としては最大となっている。同館5階には郷土資料閲覧室があり、貴重書・貴重資料も閲覧することができる。また、同館のデジタルアーカイブ「貴重資料デジタル書庫」も非常に充実しており、1877（明治10）年にフランス人のルヴェルトガ少尉が撮影した首里城正殿・崇元寺・首里王城（瑞泉門）をはじめ、首里城の古写真や古地図や「首里城正殿（沖縄神社拝殿）特別保護建造物修理工事関係資料」などの貴重な資料が遠隔地からでも容易に閲覧することができるようになっている。



写真3 沖縄県立図書館（入り口）

## ③那覇市歴史博物館

那覇市歴史博物館は「王朝文化と都市の歴史」というテーマで2006（平成18）年に開館した博物館で、国宝の「琉球国王尚家関係資料」や「横内家資料」「川平家資料」など、貴重な歴史資料を所蔵し展示公開している。また、2014（平成26）年からはデジタルミュージアムも開設され、主に那覇市を中心とした約20,000点におよぶ戦前・戦中・戦後に撮影された写真資料を閲覧することができる。



写真4 那覇市歴史博物館（入り口）

## ④沖縄県公文書館

沖縄県公文書館は、1995（平成7）年に開館した沖縄県が設置する公文書館であり、沖縄県文書（行政文書）のほか、琉球政府や琉球列島米国民政府など米軍統治下の記録（約16万簿冊）も所蔵されている。また、米国の公文書や沖縄の行政等に深く関わった個人や団体の私文書なども所蔵されている。所蔵されている資料には、地図や空中写真、写真、映像、音声資料なども含まれており、これらの原資料を閲覧・利用することができる。特に米国公文書館所蔵の沖縄統治下の記録などホームページ上で順次公開されており、沖縄戦で破壊される前後の首里城写真など貴重な資料を閲覧することができる。



写真5 沖縄県公文書館（外門）

## ⑤沖縄県立博物館・美術館と沖縄空手会館

沖縄県立博物館・美術館の前身である「沖縄県教育会附設郷土博物館」は、1936（昭和11）年に首里城内北殿に開設されたが、1945年の沖縄戦で被災し全焼した。その後、琉球列島米国民政府により残存した文化財が収集され、石川市（現在のうるま市）東恩納に「沖縄陳列館」が開設された。翌1946（昭和21）年4月に





写真6 沖縄空手会館（外観）

は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」となり、吸収合併などを経て、2007（平成19）年に現在の沖縄県立博物館・美術館となった。

沖縄空手会館は、沖縄伝統空手を独自の文化として保存・継承・発展させることを目的に、2017（平成29）年3月4日に開館。沖縄空手の練習や大会などに使用する道場のほか、歴史を伝える展示室もある。沖縄で発祥した空手は、琉球国時代に士族の嗜みとして発達したといわれており、王府の宴席の演目として空手が演武されていた。また、沖縄県になった後にも、首里城の御庭で空手を演武している様子が写された古写真などもあり、首里城・沖縄神社とは歴史的な繋がりがある。

## 2、熊本調査

2月24日（金） 正午過ぎに熊本に到着したのち、熊本博物館で日本陸軍熊本鎮台関係の展示を中心に見学をした。その後、熊本大学医学部内にある山崎記念館を見学。

2月25日（土）熊本県立図書館で終日資料調査を行った。

2月26日（日）午前、熊本県立図書館で資料調査を行なった。午後、空港へ移動し、帰路についた。

### ①熊本博物館と山崎記念館（熊本大学医学部内）

明治政府は、1872（明治5）年に琉球国を「琉球藩」とすると、1875（明治8）年5月には「藩内保護」の名目で熊本鎮台分遣隊の派遣を決定した。1879（明治12）年3月27日に松田道之琉球処分官が沖縄県を設置すると、31日には分遣隊が首里城に入城した。翌年には首里城が分遣隊の駐屯地となり、1896（明治29）年7月の分遣隊沖縄派遣終了まで続いた。熊本県立博物館には、熊本鎮台関連の展示があり歴史や概要を知ることができる。

山崎記念館は、官立熊本医科大学の初代学長であり医学博士でもある山崎正董氏を顕彰するため、1930（昭和



写真7 熊本博物館（外観）



写真8 熊本博物館への道中に見ることができる復旧工事中の熊本城と石垣



写真9 熊本大学医学部山崎記念館（旧熊本医科大学図書館）（外観）

5）年に図書館として建設されたのがその前身である。1998（平成10）年には国の登録有形文化財に登録され、現在は記念館として利用されている。筆者が訪れた時期は新型コロナウイルスの影響が比較的落ち着いてきていた時期とはいえ、建物は一般公開されておらず内部への立ち入りは叶わなかった。



## ②熊本県立図書館／くまもと文学・歴史館

野々村孝男編『懐かしき沖縄』（琉球新報社、2000年）には、昭和7～8年の沖縄で撮影された写真が多数掲載されているが、それらの写真は熊本県立図書館「山崎文庫」に収蔵されている。この「山崎文庫」というコレクションには、熊本医科大学長等を歴任された山崎正薫氏が戦前収集した約2,000タイトルにも及ぶ雑誌創刊号の他、先述の写真を含めた各地で戦前に撮影された貴重な写真類も収蔵されている。その中に山崎氏が訪れた沖縄で撮影した写真アルバムがある。アルバムは全部で四つのアルバム（以下、「山崎アルバム」）に分かれており、合計して約700点近くの沖縄関係の写真が保存されている。本調査では、この「山崎アルバム」の中から、首里城・沖縄関係の写真を確認し、収集した。また、偶然にも奄美の神社関係写真も確認することができたため、同様に収集した。



写真10 熊本県立図書館／くまもと文学・歴史館（外観）

てにおいてご助言や調整をしていただきました。また、両調査ともほかの業務の合間を縫って日程調整をしたため、急な計画での実施になりましたが、対応をいただいた非文字資料研究センターの中村氏はじめ職員の皆さま、神奈川大学生協プレイガイドの後藤氏に、心より感謝申し上げます。

## おわりに

沖縄・熊本の両調査では、首里城・沖縄神社関係の資料の確認と、収集を目的に調査を行なった。本調査で確認・収集した資料は、資料集としてまとめ刊行する。そのほか、熊本県立図書館をはじめ、各所で偶然に奄美の神社に関する資料も収集することができた。奄美の神社に関する資料については、今後、『非文字資料研究』などで紹介できればと考えている。今回の調査では、当初に想定していたもの以外の資料の発見という体験があり、やはり現地に足を運ぶことが大切だと強く感じる調査となった。

## 謝辞

熊本県立図書館・情報支援課の山下氏、第2閲覧室の杉田氏、松永氏、永野氏、沖縄県立図書館資料班の禰保氏ほか職員の皆さま、那覇市歴史博物館の大城直也氏、同館長兼那覇市役所文化財課課長の大城敦子氏、外間政明氏には多大なご協力をいただきました。ここに感謝の意を表します。特に伊良波賢弥氏には沖縄調査のほぼ全